

## 「新・方法」講義立会記

匿名希望

西暦 2000 年からの 5 年間、機関誌終刊によって幕引きとなり歴史化された方法主義に取って代わったのが「新・方法」である。「新・方法」というからには「方法」主義の存在を無視するわけにはいかないなので、2005 年 9 月に発表された『妃』vol.13 を一読することを勧める。

### 2010 年 9 月 4 日の新・方法主義宣言より

「われわれはここに新・方法主義を宣言する。

新・方法主義宣言は、新・方法主義の宣言である。

新・方法主義は、ここに宣言されたものである。

われわれは新・方法主義者である。」

### 2011 年 9 月 4 日の新・方法主義第二宣言より

「われわれは、われわれである。

新・方法主義は、新・方法主義である。

宣言は、宣言である。

新・方法主義第二宣言は、新・方法主義第二宣言である。

ここに宣言されたものは、ここに宣言されたものである。

新・方法主義者は、新・方法主義者である。」

比較してみると前者は「AはBである」と主部・述部がはっきりしているのに対して後者では「AはA」というように語句の反復法を用いている。中ザワの脱退・皆藤の加入後、新・方法主義第三宣言の中で反復法が多く使用されているのもこの影響なのだろうか。これらの宣言はどちらも平間貴大、馬場省吾、中ザワヒデキの三名を起草・立会人とし、方法主義宣言と異なり具体的宣言内容の明言を避けているところに特徴を持つ。

機関誌では毎回ゲストの寄稿と三人の作品公開によって活動の配信を行った。当初機関誌の編集人であり後に新・方法へと加入することになる皆藤将は、『『新・方法』第 1 号』で、「いかがだったでしょうか？一般的なメールマガジンと違い、ずいぶん体裁がシンプルだったと思いますが、私はこのシンプルな体裁にこそ新・方法主義者の気質を見て取れるのではないかと考えております。」と述べている。

全くの別物である「方法」と「新・方法」を比較するのは気が引けるが、「新・方法」の特徴として写真やテキスト主体の作品公開が多かったということが言える。時に美的エッセンスを交えながらメンバーの写真を配信したり、先のような反復法を使ったテキストを不規則に配信したりと、彼らは多彩な表現方法をとった。しかしながら中ザワ脱退

後の新・方法主義第三宣言では広辞苑に掲載されている言葉を反復させて書くという、地道かつ至ってシンプルな配信がなされた。

例えば「当せん金付証券の購入」という記録と、震災後「災害支援ボランティアへの応募」という記録がなされたことから分かるように、「新・方法」は人々に教え伝えるものではなく、なるべく多くの出来事を歴史として人々に目撃してもらうための活動なのではなかろうか、という理解が生まれるのと同時に、「新・方法」とはこういうことなのかという一解釈が生まれた。ボランティアの応募にせよ当せん金付証券の購入にせよ、重要視すべきはその結果ではなく過程であるという解釈である。そう考えると、身近に理解するのが困難だった「方法」に比べて「新・方法」は、その抽象的な表現方法に反して我々の日常にも通ずる具体性を持っているものを感じられた。

「中ザワ」という一人称を使用し常に客観的な講義を進める中で中ザワは脱退の意図を明確に説明することを避けた。中ザワがこの講義の聴講者を「学生」としてではなく「立会人」として扱っていることが理解できる。